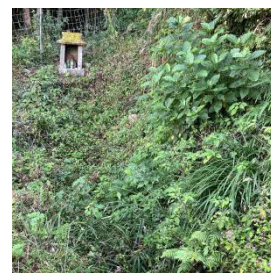
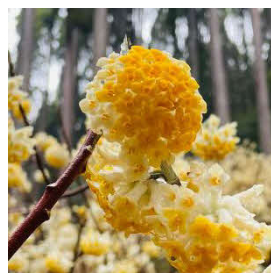
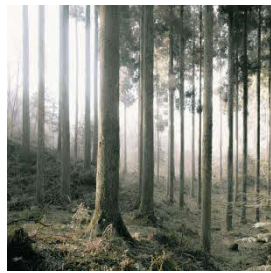


がまだす里モン支援事業 令和2～4年度(2020～2022年度)事例集

がまだす里モンの知恵袋



目次

1. がまだす里モン支援事業の取組み	1
2. 事例紹介にあたって	1
3. 事例紹介	2
(1) 人材育成、確保のための取組み	
事例 1 上床水源の地保存会 (宇土市)	2
事例 2 かじむき・しゅんなめじょ (球磨村)	4
事例 3 クラフトワーク南小国 (南小国町)	6
(2) 活動資金確保のための取組み	
事例 4 三角サトウキビ活性化会 (宇城市)	8
事例 5 南小国町あか牛販売会 (南小国町)	10
事例 6 黒川温泉観光旅館協同組合 (南小国町)	12
事例 7 槻木みつまた (多良木町)	14
(3) 活動の発展性を高めるための取組み	
事例 8 小川まちかど編集部 (宇城市)	16
事例 9 ましきフットパスの会 (益城町)	18
4. 採択団体と市町村へのアンケート結果	20
5. 活動の自己分析に便利なツール	20
6. 熊本県むらづくり課の情報発信媒体	21

◆むらづくり課ホームページ「くまもとふるさと応援ねっと」

◆むらづくり課公式 SNS

●表紙写真

かじむき・しゅんなめじょ	黒川温泉観光旅館協同組合	南小国町あか牛販売会
小川まちかど編集部	クラフトワーク南小国	ましきフットパスの会
三角サトウキビ活性化会	槻木みつまた	上床水源の地保存会

表紙は、本事例集掲載の9団体の活動を代表する産物や場所、主な活動場面の写真

●裏表紙写真

かじむき・しゅんなめじょ 班長	黒川温泉観光旅館協同組合 事務局長	南小国町あか牛販売会 会長
小川まちかど編集部 代表	クラフトワーク南小国 代表	ましきフットパスの会 会長
三角サトウキビ活性化会 会長・事務局長	槻木みつまた 会長	上床水源の地保存会 会長

裏表紙は、本事例集掲載の9団体の代表者の写真

●事例団体の紹介ページの構成

(左ページ) 優良団体の活動紹介	(左ページ) 活動のポイント
---------------------	-------------------

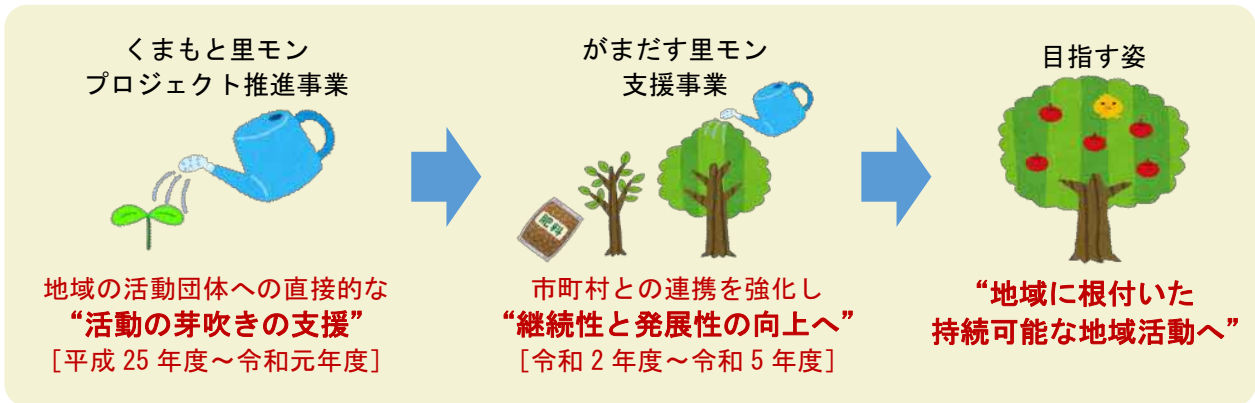
2~19 ページの事例団体紹介は見開きで上図の内容構成となっています

●優良事例の皆さんによる活動ポイント動画のご紹介

むらづくり課公式 YouTube では、本事例集でご紹介する9団体の皆さんによる活動ポイント動画を掲載しています。ぜひご覧ください。



1. がまだす里モン支援事業の取組み



くまもと里モンプロジェクトのはじまり

平成 25 年度（2013 年度）から 7 年間実施した「くまもと里モンプロジェクト」は、「美しい景観の保全、創造」「文化・コミュニティの維持・創造」「地域資源を活用した内発的産業の創造」といった観点の幅広い取組みを県下全域で呼び起こし、持続可能で元気な農山漁村を目指して立ち上げました。

「くまもと里モンプロジェクト」から「がまだす里モン支援事業」へ

「くまもと里モンプロジェクト」では、県内各地に様々な地域活動の芽吹きや成果が生まれました。これらを踏まえ、「がまだす里モン支援事業」では、農村のコミュニティの機能強化と地域活動を持続できる体制づくりを目指す住民主体の取組みを支援する市町村への補助を通して、農山漁村地域の活性化を目指しました。

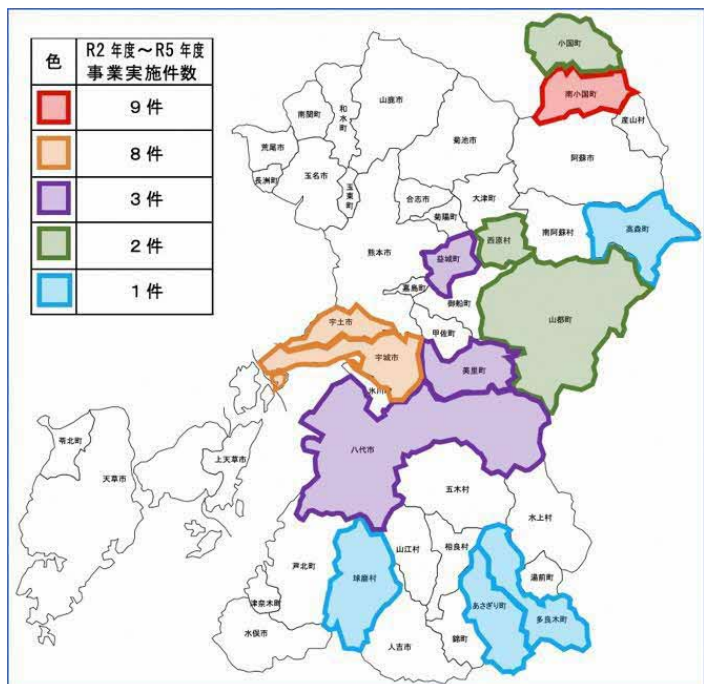
3 つの大きなテーマ「1 人材育成、確保のための取組み」「2 活動資金確保のための取組み」「3 活動の発展性を高めるための取組み」に沿った取組みを支援、令和 2 年度（2020 年度）から令和 5 年度（2023 年度）までの 4 年間において 46 件の地域活動が展開されました。

2. 事例紹介にあたって

今回は、令和 2 年度（2020 年度）から令和 5 年度（2023 年度）までに本事業を活用された皆様の活動内容や成果の中から、今後、同様の活動に取り組みたいと考える方々への参考となるとおられる事例を取りまとめました。

まずは、本事業を活用された皆様と市町村へアンケート調査を行い、そのアンケート結果、テーマ及び地域のバランスを考慮して、9 事例をご紹介します。

（令和 5 年度（2023 年度）の申請分は除きます。）



がまだす里モン支援事業を活用された市町村

【テーマ】
1-人材育成、確保のための取組
(1) コミュニティの支援

【採択年度】
R4 年度

宇土市 上床水源の地保存会

地域自治組織が母体となった活動を若手が支え、成果が得られたことで、本事業終了後も活動が継続できており、コミュニティの支援が実現しています。

地域の課題と活動をはじめた動機

網田地域の田畑の5分の1を潤していた上床水源地は、近年、イノシシなどの獣害により水路が埋まり、さらには、一人暮らしのご自宅の庭にイノシシが出没するなど、危険な状況も発生しました。

そこで、イノシシを減らす取組みと人の目が行き届く水源となるように整備する活動を始めました。

活動（事業）内容

- 水源の石積み直しや除草、水源までの通路整備を行いました。
- イノシシ被害防止のために金網とワナを設置しました。

成果

活動をとおして、狩猟免許保有者や4名の若手も新たに加わり、コミュニティの活性化につながりました。

活動前と比べて、イノシシによる被害も減少し、安心して住めるようになりました。

現在の活動と今後の展望

- 安心して農作業や生活ができるように、獣害を防ぐ活動を続けています。
- 水源周辺の定期的な除草や侵入竹の伐採などを行い、子供たちにきれいな水源を残していきたいと思えます。
- 水源の水を活かした「わさび栽培」を行い、地元の特産にすることを検討しています。
- 地域内外の交流人口の増加や都市部からの移住者の増加を目指し、散策の休憩所等に利用できる東屋を整備する予定です。

連携団体

- クマモト☆農家ハンター
- 網田地域内の他の集落への声掛けも継続していく予定

情報発信媒体

- なし



上床地区の風景



上床水源の地



水源までの通路整備



整備後のイベントの様子

【地域の概要】 宇土市上網田町上床地区 (人口) 77 人 (世帯数) 36 世帯 [住民基本台帳 2023.11 現在]
【組織の概要】 上床水源の地保存会 会長：福島 清幸 会員数：77 名 活動拠点：上床地区公民館

網田の生活を守る

水源がイノシシに荒らされることで、再生した水田がまた耕作放棄地に。庭がイノシシに荒らされてしまっは安心な生活は送れません。上床集落では、自分たちのチカラで水源も生活も守り、集落と網田の農業も維持していきます。



イノシシ除け柵づくり



集落メンバーで竹の伐採

若い人につなぐ

上床集落は高齢者ばかりですが、2~3年前から若手5名ほどがリターンし、主力として活動しています。彼らに水源整備やイノシシ対策に取り組んでもらうことで、集落を支える活動が次代につながっていきます。



若手の参加でイベント開催の打合せ



若手の協力を得た重機作業の様子

網田の他の地区との連携を続けていく

イノシシが山から各集落に降りてくるので、上床集落だけでは対策は不十分ですが、網田周辺の集落までは活動があまり広がっていません。周辺地域への声掛けを続けていきます。



上床公民館での打合せの様子



共同作業による草刈り・竹の伐採

【テーマ】
1-人材育成、確保のための取組
(1) コミュニティの支援

【採択年度】
R4 年度

球磨村 かじむき・しゅんなめじょ (小川班)

むいた楮(コウゾ・カジ)の皮での和紙づくりとむいた楮の木を使ったしゅんなめじょづくりを通して、小川地区の伝統文化を次世代に継承していくことがコミュニティの場となり、地区の良さを見つめ直す良いきっかけとなっています。

地域の課題と活動をはじめた動機

渡地区(小川班)は、和紙の原料となる楮の皮の供給を農閑期の副業としていました。地区住民の高齢化と少子化により、伝統行事・伝統文化の継承が難しい中、小川班の伝統行事として楮の皮むきだけは貴重な取組みとして残っていました。地区住民から「もったいない」の声があり、楮皮での和紙づくりの復活を試みることにしました。

活動(事業)内容

- 楮皮づくりや和紙づくりの文化を次世代へ継承するための取組みとして、地域住民や小学生の共同した手すき和紙づくり体験会を行いました。
- むいた楮の木を使って、小正月に飾る人形「しゅんなめじょ」を作りました。

成果

- 渡地区(小川班)の伝統文化「楮の皮むき」と「しゅんなめじょづくり」を小学校の体験学習として交流することで、子どもたちへ地域文化の素晴らしさを伝えるとともにコミュニケーションの場にもなっています。
- 子どもたちは、和紙づくりを体験することで紙漉きの楽しさを味わい、和紙づくりへの興味・関心が高まりました。

現在の活動と今後の展望

- 和紙づくりは冬場の仕事になるので、和紙の原料となる楮の調達と皮むきの計画を立てています。
- 賞状やハガキづくりだけでなく、和紙を活用した作品づくりなどを行いながら他地域へ広め、活力ある地域づくりに努めていきたいと考えています。

連携団体

- 球磨村役場復興推進課山村振興係

情報発信媒体

<https://www.kumamura.com/>



渡地区(小川班)の風景



楮(コウゾ・カジ)



小学生たちとの交流



和紙づくり用の釜煮

【地域の概要】球磨村渡地区小川班 (人口) 77人 (世帯数) 33世帯 [住民基本台帳 2023.12 現在]
【組織の概要】かじむき・しゅんなめじょ 班長(当時):小川 豊明 会員数:60名 活動拠点:公民館・自宅

事業企画・展開のポイント

和紙づくりは伝統行事。楽しく意欲的に活動する！

恒例行事として伝統行事を行うには、その行事の目的を明確に示すことが大切だと思います。参加者が子どもでも大人でも、それぞれの役割に合わせた環境を整備することで、活動が楽しく活発に展開できると思います。



皮むきの作業



紙漉きの作業

組織運営のポイント

マネジメントを大事に！

組織を動かすには、計画・実施・評価・改善が必要だと思います。地区内の皆さんの発想力や技術力を活かした計画を立て、楽しみながら活動することが次へとつながる振り返りになります。



原木の切り出し



皮むき作業

他の団体と連携ポイント

伝え合うことが大事！

他の団体との情報交換や相互理解が必要です。定期的に交流し、情報交換を行うことで相互理解を図り、日常的なつながりや信頼関係を深め、より活性化した活動へとつなげていくことが大切だと思います。



和紙の作品づくり



小学校との交流

【テーマ】
1-人材育成、確保のための取組
(3) 担い手育成

【採択年度】
R2・R3・R4 年度

南小国町 クラフトワーク南小国

中学生が地域のためにもものづくりを行うことで、山や木材への意識向上を図り、地域の人たちにも小国杉に触れてもらう機会を増やしていきます。また、木育を活用した観光コンテンツの開発も行います。

地域の課題と活動をはじめた動機

南小国町は林業が盛んですが、林業従事者の減少や高齢化による後継者不足が課題です。

そこで、後継者育成のきっかけとするため、若者たちが木と触れ合う機会を作り、ブランド杉としての小国杉を広め、地元の素材を活かしたデザイン検討などの活動を始めました。

活動（事業）内容

- 中学生がファブクラブを作り、ファブラボを活用してツールなどを作成しました。
- 小学生・保護者・大学生らを対象に木育のワークショップを開催し、平均台を作りました。
- ファブラボにある機械を活用した木材加工技法の習得や温泉施設宿泊者向けの体験プログラムを実施しました。

成果

- 3D プリンターやレーザーカッターなどのデジタル機器を活用して制作することで、アナログとデジタルのハイブリッドな木材加工技法を確立し、3人がその技法を習得しました。
- 温泉施設と連携した地域滞在者向けの新たな体験プログラムを確立できました。今後は、継続販売に向けてさらなる効率化を進め、集客手法を検討していきます。

現在の活動と今後の展望

- 地元の学校から木育体験の依頼が来るようになったので、木育（木づかい運動）を今後も継続していきます。
- 地元旅館と連携した木育ワークショップと宿泊がセットになった観光コンテンツを売り出したいと考えています。

連携団体

- 学校や教育委員会
- ファブラボを利活用するクリエイターの方々

情報発信媒体

<https://ja-jp.facebook.com/FablabAsoMinamioguni/>
https://www.instagram.com/fablab_minamioguni/



小国杉の森



小国杉のクラフト作品



中学生のツールワークショップ



小学生の平均台ワークショップ

【地域の概要】南小国町（人口）3,874人（世帯数）1,866世帯 [住民基本台帳 2023.12 現在]
【組織の概要】クラフトワーク南小国 代表：竹下 由記 会員数：5名 活動拠点：ファブラボ

事業企画・展開のポイント

ターゲットのサーチと地域の環境を活かす

イベント参加者が「今、何に興味や関心を持っているか」ということを常日頃からサーチ・分析して形にすることと地域の環境を活かすということを大切にしています。



シェーカーボックスワークショップの様子



平均台ワークショップの様子

組織運営のポイント

クリエイターの方々と一緒にイベントを行う

クリエイターとして地元で活躍されている方々は、デザイン業界の最前線で活躍されている方が多いので、イベントの成果が最大限になるよう、運営スタッフとして誰と連携するかを考えています。



小国産ヒノキの平均台



小国杉シェーカーボックス

他の団体と連携ポイント

学校や教育委員会との連携

子どもたちを対象にしたワークショップを行うときに、学校や教育委員会、行政との連携も必要になります。地域の自治会長への挨拶やイベントの趣旨を丁寧に説明することを心がけています。



温泉施設宿泊者向けのワークショップ



ファブラボ外観

【テーマ】

2-活動資金確保のための取組

- (1) 特産品等の開発
- (2) 特産品等の販路開拓・拡大

【採択年度】

R2・R3・R4 年度

宇城市 三角サトウキビ活性会

過疎化と高齢化が進み、活力が小さくなった地域を見て、かつて江戸後期にこの地域をサトウキビで豊かにした「高橋伊左右衛門」に倣い、失われた黒砂糖づくりを復活させつつ、小学校での食育や農福連携などに取り組んでいます。

地域の課題と活動をはじめた動機

過疎化と高齢化が進み、拠り所となる小学校も保育園もJA支所も無くなりました。

そこで、江戸後期に困窮したこの地域に、徳島のサトウキビを広め、地域を豊かにした前越村庄屋の「高橋伊左右衛門」を手本として、伝統製法による黒砂糖づくりの復活と特産品づくりを目指しました。

活動（事業）内容

- 休耕地等を活用し、サトウキビを植え付けました。
- 旧JA支所の空き倉庫を借り受け、黒砂糖づくりに必要な40Lの釜×3機の窯を製作しました。
- 青海小学校での食育や農福連携にも取り組み、サトウキビ栽培や黒砂糖づくりを行いました。
- 黒砂糖をベースとした商品開発（シロップ等）とパッケージデザインなどの特産品づくりに取り組みました。

成果

- 各地区においてサトウキビ栽培が広がり、黒砂糖づくりへの意欲が高まったことで、集落連携体制や協働の意識が醸成されました。
- みかん畑等がサトウキビ畑に変わり、現在では2.5haまで広がっています。

現在の活動と今後の展望

- 青海小学校や地元福祉施設と連携したサトウキビ栽培と黒砂糖づくり等の地域活動や地域の多くの方が参加できるイベントを開催して、地域活性化を図っていきます。
- スコーンやパウンドケーキ、クッキー等の黒砂糖を活かした商品開発と販売の安定化を図ります。

連携団体

- 青海小学校や地域の福祉施設
- JAや各区の集落組織

情報発信媒体

- なし



サトウキビ畑での刈り取り風景
(写真提供：青海小学校)



サトウキビ畑の見学



黒砂糖づくり



製糖釜

【地域の概要】 宇城市大岳地区 (人口) 750人 (世帯数) 346世帯 [住民基本台帳 2023.12 現在]
【組織の概要】 三角サトウキビ活性会 会長：高濱 希好 会員数：20名 活動拠点：JA倉庫の製糖所

地域の盛り上がりと話題性づくり

地域の過疎化が進行しているので、なんとか地域が盛り上がるような話題性づくりとして、一度途切れた黒砂糖づくりに取り組みました。黒砂糖づくりが商品開発のイベントにもつながりました。



農福連携の取り組み (写真提供：豊洋園)



スコーンなどの商品づくり

伝統を守り、これからも受け継いでいくこと

伝統的な黒砂糖づくりの復活から会長が守ってこられた製法を活性会として引き継いでいこうと、昔ながらのやり方での黒砂糖づくりを永く後世までつないでいきます。



青海小学校の体験教室 (写真提供：青海小学校)



製糖作業

地域独自の取り組み（アピールと商品の良さ）

活性会を構成している6行政区（大口、手場、古場、宮崎、黒崎、上本庄）は、黒砂糖だけでなく、柑橘類やコノシロ・コウイカ等の農水産物が数多くあります。地域の良さをアピールし、お客様に提供したいという思いで取り組んでいます。



黒糖を使った商品



商品検討会

【テーマ】
2-活動資金確保のための取組
(1) 特産品等の開発

【採択年度】
R3 年度

南小国町 南小国町あか牛販売会

(現：南小国町あか牛繁栄会)

地域内であまり取り組まれていなかった「あか牛の経産牛肥育」に着目し、あか牛の地産地消を目指して「特産品開発と町内におけるあか牛の流通量増加」の取組みを進めています。

地域の課題と活動をはじめた動機

「地元でしか作れないものを地元で売りたい」という思いから、地域内流通が少ない「あか牛」の地産地消を目指して活動しています。通常の肥育方法で育てることにチャレンジした後、本事業では、今まで取り組まれていなかった経産牛を南小国町の草原で肥育し、町内での特産品化に向けて取り組みました。

活動（事業）内容

- あか牛の専門知識・技術を持つ料理人や有識者の方々にご指導や助言を頂きながら、生産や流通方法、加工品などを検討しました。
- 地元の事業者やレストランのシェフの方々に経産牛の飼っている様子を伝え、試供品を提供することで経産牛の食肉としての評価を行っていただきました。

成果

- 阿蘇の草原を活用した肥育方法を確立させることによって、あか牛のさらなる魅力の発信につながると確信しました。
- 黒川温泉観光旅館協同組合と連携したあか牛の加工品開発への取組みにつながっています。

現在の活動と今後の展望

- 人気のある部位に偏りがあるので、事業所との調整を行う必要があります。
- 活動に賛同する生産者と経産牛の流通量を増やして、持続可能な経営となる経産牛の放牧肥育や流通・消費の仕組みづくりと、あか牛の良さを地元から発信できるような取組みについて検討していきます。

連携団体

- あか牛の専門知識・技術を持つ料理人や有識者の方々
- 黒川温泉観光旅館協同組合

情報発信媒体

- なし



あか牛の放牧風景



あか牛



料理人・有識者の検討会



あか牛経産牛の肉の加工品

【地域の概要】南小国町 (人口) 3,874人 (世帯数) 1,866世帯 [住民基本台帳 2023.12 現在]
【組織の概要】南小国町あか牛販売会 会長：佐藤 勝明 会員数：5名

地元で出来たものを地元で発信、消費できる仕組み

地元の事業者やシェフの方々に意見をもらい、地元の方々に試食していただくことで、地元で出来たものを地元で発信し、消費できる仕組みを構築・検討することができました。



料理人・有識者の検討会



試食会

この組織自体を自立した組織体にする

組織として活動することで、一人では不可能なことも、多種多様な人々から協力していただけるようになり、より良い活動につなげることができます。



あか牛放牧風景



あか牛生産者・地元業者の検討会

黒川温泉などの地元の企業との連携

経産牛の肥育から販売までの取組みにおいて、調理方法を検討する際はシェフの方々に意見をもらい、流通方法を検討する際は旅館や地元企業の方々と連携することで、活動の可能性が広がりました。



あか牛を余すことなく食す会



あか牛放牧風景

【テーマ】

2-活動資金確保のための取組

- (1) 特産品等の開発
- (2) 特産品等の販路開拓・拡大

【採択年度】

R3・R4 年度

南小国町 黒川温泉観光旅館協同組合

温泉旅館の新たな取組みとしてサステナブルな資源循環をテーマに、「黒川堆肥（温泉街から出る生ゴミ堆肥）」で育てたトマトの加工品開発やあか牛の地産地消など「余すことなく」活用する手段の確立を目指しています。

地域の課題と活動をはじめた動機

黒川温泉は温泉手形や景観形成など、組合設立から 60 年以上、様々な活動に取り組んできました。現在、旅館では人手不足などの課題もありますが、現世代の取組みとして、地元農家の方々と連携して、旅館から出る生ゴミを堆肥化し、その堆肥で野菜を育て、旅館の料理として提供するというサステナブルな資源循環の実証実験に挑戦しました。

活動（事業）内容

- 南小国町で美味しいトマトを育てる生産者と連携してトマトジュース「yoin」を開発しました。旅館関係者やお客様へのモニターアンケートでは、高い評価を得ることができました。
- あか牛は旬の地元食材を掛け合わせ、料理人によるフードアートパフォーマンスをとおして物語のあるレシピやメニューを開発しました。

成果

- トマトジュースは質の高い試作品ができたので、モニターアンケートを参考に、1本あたりの価格と量を検討し、令和5年（2023年）に商品化したところ150本が完売しました。
- あか牛のあまり使用されない部位の料理を試食し、アンケート結果から黒川温泉の旅館や飲食店での活用も見込めるという知見を得ました。

現在の活動と今後の展望

- トマトジュースのコストを抑える工夫やあか牛の使われない部位の活用などの検討を継続します。
- インバウンド需要による泊食分離など宿泊形態の変化への対応については組合員や飲食店と継続した体制構築を検討します。

連携団体

- 地元農家
- 地元畜産農家・南小国町あか牛繁栄会

情報発信媒体

黒川温泉公式サイト：<https://www.kurokawaonsen.or.jp/>



黒川温泉地の風景



黒川堆肥を用いたトマトジュース



トマトジュースの商品化



あか牛のメニュー・試食会

【地域の概要】南小国町黒川地区（人口）466人（世帯数）307世帯 [住民基本台帳 2023.12 現在]
【組織の概要】黒川温泉観光旅館協同組合 会長：音成 貴道 会員数：25名 活動拠点：組合事務所

私たちのプロジェクトは、積極的に自分たちが「動きながら学ぶ」ことをテーマに、堆肥づくりをはじめとしたサステナブルな資源循環に向けた取組みを進めています。



黒川堆肥で育てたトマト



旅館から出る生ゴミを堆肥化

一人でできることは限られます。キーマンとなる旅館の方、連携したい地域の農家・事業者の方々に、いかに想いを伝え、共感してもらえるかが重要だと思います。



あか牛を余すことなく食す会



地元トマト農家との連携

インスタグラムなどのSNSを活用した情報発信の際には、流行やトレンドを重視するよりも、自分たちの思想や黒川温泉らしさを貫くことを大切にしています。



トマトジュース商品開発



あか牛部位活用検討会

【テーマ】

- 1-活動資金確保のための取組
- (2) 特産品等の販路開拓、拡大

【採択年度】

R3 年度

多良木町 槻木みつまた

過疎化が進行している槻木地区では、和紙づくりや「三桠（みつまた）」の特性を活かした新たな産業起こしに取り組み、若者の呼び込みを試みています。

地域の課題と活動をはじめた動機

槻木地区では、過疎化の進行や主要産業である林業の低迷が課題です。

そこで、新たな産業として可能性がある地域資源の三桠の木に着目し、和紙の原料である三桠の枝を「ホワイトインテリア」として活用する取組みを考えました。

活動（事業）内容

- 皮を剥いだ枝（ホワイトインテリア）を花材として活用し、ふるさと納税の返礼品としての出品やオンラインショップでの販売を行いました。
- 学生団体との交流会を行い、共同で三桠の植林活動を行いました。
- 鹿の食害がないことから、関連企業と忌避剤としての活用を検討しました。

成果

- ふるさと納税の勉強会参加者や三桠を手にとった方から「槻木の三桠はボリュームがあって質が良い」など、高い評価をいただきました。
- 全国各地で、のべ 800 名以上の方に「ホワイトインテリア」として楽しんでいただいています。

現在の活動と今後の展望

- 「ホワイトインテリア」の販売収入は、増加傾向ですが、生業として生計できるまでには至っていません。
- 今後は、生業としての確立を目指すとともに、文化を継続するために後継者の確保にも力を入れていきたいと考えています。

連携団体

- 学生団体（愛知県、兵庫県、東京都、茨城県の学生）
- 一般社団法人たらぎ財団
- 民間の人材派遣会社

情報発信媒体

TSUKIGI みつまた HP: <https://tsukigi-mitsumata.com/>
https://www.instagram.com/tsukigi_mitsumata/

槻木集落メディア HP: <https://kumamoto-tsukigi.com/>
https://www.instagram.com/tsukigi_syuraku/



槻木の風景



三桠の写真



三桠の群生



連携団体との活動

【地域の概要】多良木町槻木地区（人口）86人（世帯数）54世帯【住民基本台帳 2023.12 現在】
【組織の概要】槻木みつまた 会長：椎葉 袈史 会員数：6名 活動拠点：会長宅

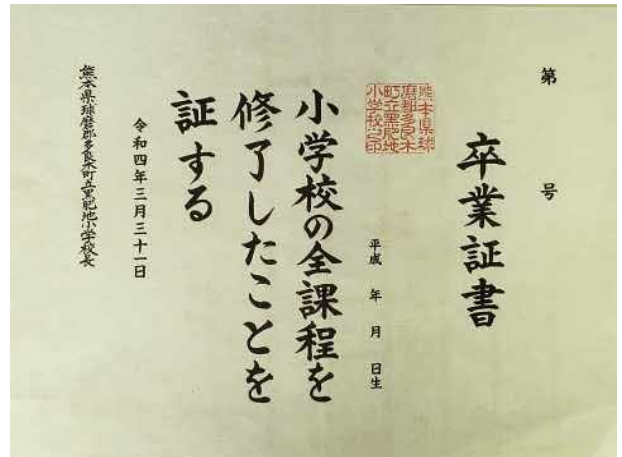
事業企画・展開のポイント

地域の産業として定着させたい

過疎化が進行している槻木地区では、主要産業の林業も低迷しています。しかし、田舎や地域活性化に興味がある若者たちを呼び込むためにも「ホワイトインテリア」を産業として、確立・定着していきたいと思ひます。



ホワイトインテリアの活用事例



多良木町の卒業証書

組織運営のポイント

外部からの力を借りる

地域の方の理解を得て広げていくには、一定の収益がないと継続できないため、学生や企業など外部の力をお借りしながら産業として起こすことだと考えています。



学生との植林活動



華道家 假屋崎省吾さんの個展で使用

他の団体と連携ポイント

ふるさと納税サイトなどの活用

ふるさと納税サイトの活用やオンラインショップ、SNSの立ち上げなどの情報発信に取り組んでいます。三極の「ホワイトインテリア」を全国に広められるように活動していきたいと思ひます。



ふるさと納税の返礼品として出品



槻木みつまたのホームページ

【テーマ】
3-活動の発展性を高めるための取組
(2) 情報発信

宇城市 小川まちかど編集部 (現：一般社団法人 kite)

登録有形文化財の「風の館塩屋」の運営危機から、管理者に代わって「風の館塩屋」を紹介するパンフレットや案内板を製作。現在は新たな管理者として、古民家という施設の特長を活かした体験型の交流機会を創出し、地域と連携しながら事業を展開しています。

【採択年度】
R2 年度

地域の課題と活動をはじめた動機

古くからの宿場町で伝統的な町屋が点在する宇城市小川町の「小川商店街」では、高齢化が進み、シャッター街となっていたこと、また、商店街内のコミュニティ拠点である「風の館塩屋」の維持・管理が危惧される状況でした。

そこで、当時の管理者である「風の会」の運営サポートを行うことにしました。

活動（事業）内容

- 情報発信のために「風の館塩屋」の登録有形文化財を紹介するパンフレット（日英 2 カ国語表記）と案内板を製作しました。
- 交流機会を創出するために町屋の大掃除やピザづくり体験会等のイベントを実施しました。

成果

- 日英 2 カ国語表記のパンフレットや案内板を製作したことで、その歴史的価値を国内外に情報発信ができる体制を整えました。
- ピザづくり体験イベントには地域の若者が参加され、利用者のターゲット層が広がりました。

現在の活動と今後の展望

- 令和 4 年（2022 年）1 月に法人格を取得し、月に数回のカフェ営業や企画（町屋探訪ツアーやヨガ教室）を行うとともに、商店街を巻き込んだイベント（小川蚤の市やかかるかや市）を企画・運営しています。
- 現在、民間のレンタルスペースサイトで予約受付を行っていますが、自社のホームページを作成し、レンタルスペースとしてのさらなる利用促進を計画しています。

連携団体

- 地元の飲食店や整体院、ヨガスタジオなど
- 他小川商店街の商店や大型商業施設などの近隣施設

情報発信媒体

Instagram (@shioya_ogawa)



小川町商店街



「風の館塩屋」全景



「風の館塩屋」内部



作成したパネル

【地域の概要】 宇城市小川町 （人口） 12,515 人 （世帯数） 5,275 世帯 [住民基本台帳 2023.12 現在]
【組織の概要】 小川まちかど編集部 会長：大池 早代 会員数：5 名 活動拠点：風の館塩屋

事業企画・展開のポイント

ローカルを楽しむ

メンバーや地元の方、イベントに参加して下さった方が楽しむことができる企画を考えます。中でもイベントについては、地元向けや若者向け、県内外の幅広い層など、ターゲットや内容を変えて実施しています。



かるかや市



ピザづくり体験

組織運営のポイント

しっかり話し合う

現在3人で「風の館塩屋」を運営していますが、それぞれの経験が異なるので、考え方や視点も異なります。意見に食い違いがあれば、それを共有して議論し、3人が納得した状態で進めていくことが大切だと思っています。



町屋カフェ



小川蚤の市

他の団体と連携ポイント

共感の和を広げる

地域の活性化や法人の利益よりも、「自分たちがどれだけ楽しめるか」を大事にしています。また、私たちの空気感に共感してもらえる方と連携していきたいと考えています。



地域の仲間たち



ヨガイベント

【テーマ】
3-活動の発展性を高めるための取組
(2) 情報発信

【採択年度】
R3 年度

益城町 ましきフットパスの会

熊本地震からの復興と農山村の活性化を願い、そのきっかけづくりになればとの思いで、郷土史を学ぶ仲間 11 名で「ましきフットパスの会」を結成しました。現在は 13 名の会員で 11 のフットパスコースを作ることができました。

地域の課題と活動をはじめた動機

益城町には、先人が遺した文化遺産や遺跡が数多くありましたが、平成 28 年（2016 年）熊本地震で損壊し、また、復興のための開発によって減少しています。

地震からの復興と農山村の活性化を願い、そのきっかけづくりになればと郷土史を学ぶ仲間「ましきフットパスの会」を結成しました。

活動（事業）内容

- フットパスのイベントに向けて、①～④を実施しました。
※①コース検討、②コースマップ作成
③看板製作、④イベント実施地区への周知
- フットパスのパンフレットを作成し、公共施設などへの設置による情報発信にも取り組みました。

成果

- フットパスイベントでは、地区住民と参加者との交流が行われ、リピーターと新規参加者の増加につながりました。
- 地域の歴史や文化を知ってもらうきっかけと理解につながり、現在では、フットパスのコースが 11 コースまで増えました。

現在の活動と今後の展望

- 令和 5 年（2023 年）には、新たに 2 名が入会し、1 年に 2 回の活動（事前巡見と清掃）を行っています。今後は世代交代を見据えて、若者が参加しやすいイベントを検討していきます。
- イベント時の地域住民との交流（えんがわカフェ）場所の設置と農産物の販売を継続して実施します。

連携団体

- 益城町生涯学習課
- フットパスイベント実施地区

情報発信媒体

- なし



フットパスの看板のある道



フットパスコースマップ



フットパスイベント



えんがわカフェ

【地域の概要】益城町（人口）34,036 人（世帯数）14,416 世帯 [住民基本台帳 2023.12 現在]
【組織の概要】ましきフットパスの会 会長：村口 省三 会員数：13 名 活動拠点：ミナテラス 益城町交流情報センター

事業企画・展開のポイント

熱意があればできる！

地区区長さんの理解と協力なしではイベントはできません。地元有志による説明案内を組み込むとイベントが盛り上がるので、協力依頼が必要です。イベントの成功は、私たちの熱意にかかっています。



コースの巡見



コースの清掃

組織運営のポイント

会員の協力なしでは、なんにもできん！

会員 13 名、全員 70 代ですが、まだまだやる気に満ち溢れています。会員の声を取り上げ、「皆んなで協議し、皆んなで決定、皆んなで楽しく実行」をモットーにしてやっています。無理なく、焦らず、永く会を続けたいと思います。



定例会



コースの検討風景

他の団体と連携ポイント

周知徹底と PR 活動！

他の団体と共催する時は、依頼団体の責任者とよく打合せを行い、ニーズを確認し、関係者への周知徹底に努めています。情報発信では、町の広報紙でのイベント案内に加え、各種行事への参加による活動内容の周知を心がけています。



施設での展示等

みんなの掲示板

ふる里再発見！
土山・本土山を歩こう

熊本藩御用達の土山瓦の古里と、飯田山へ続く里道に佇む一丁地蔵などを見ながら一緒に歩きましょう（参加料500円、先着25人）。

とき 11月12日① 午前9時～正午
ところ 国道443号土山交差点東側駐車場

申込・問い合わせ フットパスの会（村口）

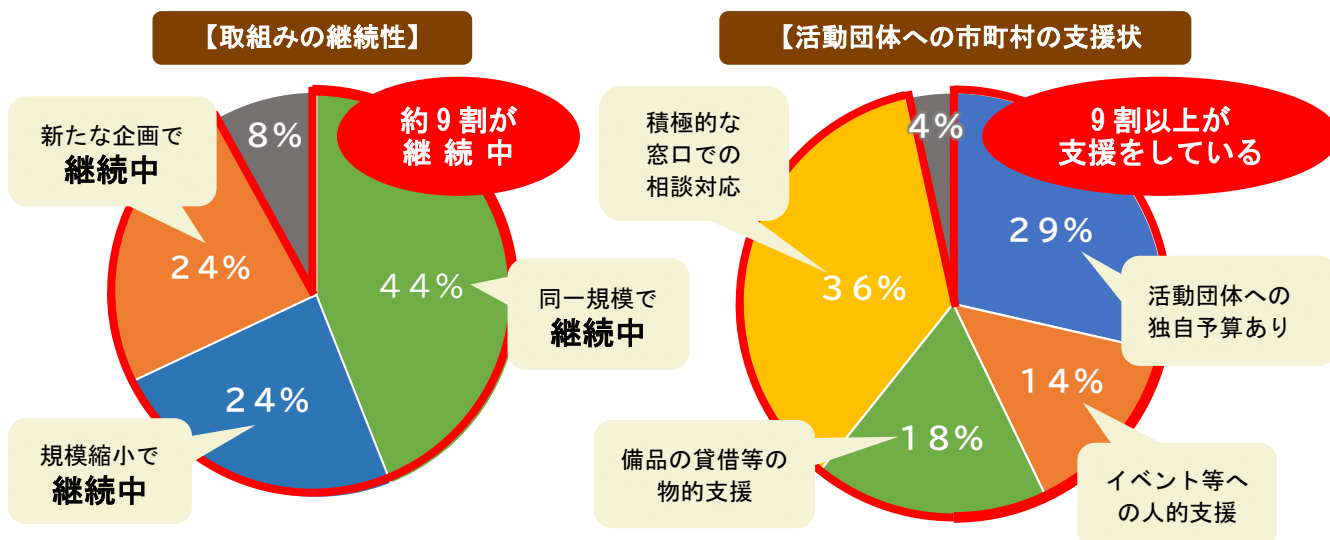
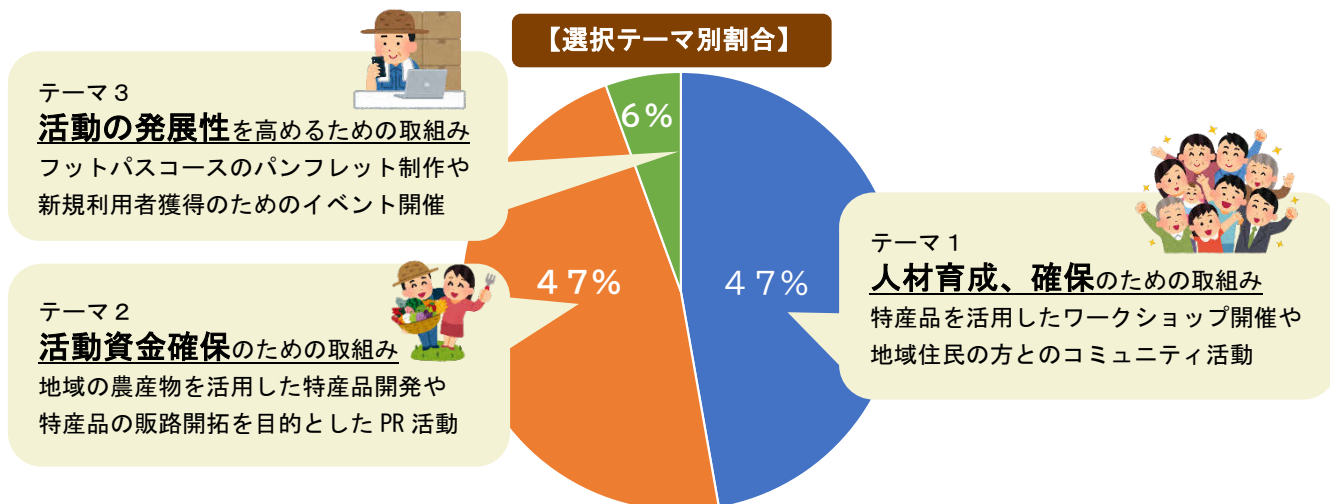
37 広報ましき 令和5(2023).11

広報ましきでの取り上げ記事

4. 採択団体と市町村へのアンケート結果

この事例集を発刊するにあたり、本事業を活用された団体や市町村すべてにアンケート調査を行いました。その結果（概要）をご紹介しますので、今後、住民による活動の参考としてください。

本事業を活用された団体においては、活動や組織の持続化を目指した取組みが多い傾向で、本事業が終了した後でも、ほとんどの団体において活動が継続されています。また、地元の市町村からの協力・支援があることも活動や組織の持続化に繋がっています。

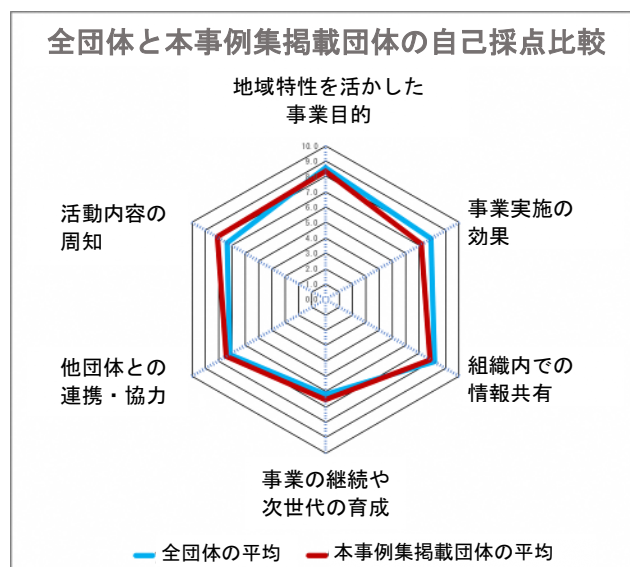


5. 活動の自己分析に便利なツール

アンケート調査では、「地域特性を活かした事業目的」「事業実施効果」「活動団体内での情報共有」「事業継続や次世代の育成」「他団体との連携・協力」「活動内容の周知」の6項目について10段階で自己評価をしていただきました。回答いただいた22団体の結果をご紹介します。

第三者の視点で自らの活動を評価することは、次のステップに進むときや活動のレベルアップのヒントになります。

活動を振り返る際に活用してみてください。



6. 熊本県むらづくり課の情報発信媒体

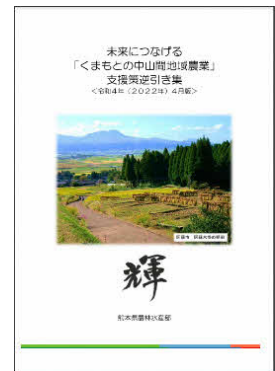
熊本県内の農山漁村地域で開催するイベント、グリーン・ツーリズムに関する情報、研修会や補助事業の募集などの情報を熊本県むらづくり課のホームページや公式 SNS で随時発信しています。

熊本県の事業を活用し、イベントや活動の広報を希望される際は、これらを活用して情報発信することができます。ぜひご相談ください。

◆むらづくり課ホームページ「くまもとふるさと応援ねっと」

「くまもとふるさと応援ねっと」では、活動の支援策や参考となる事例、イベント情報など、さまざまな情報を掲載しています。

多岐にわたる関連事業を取りまとめた「未来につなげる『くまもとの中山間地域農業』支援策逆引き集」を毎年作成しています。ホームページに掲載していますので、ぜひご活用ください。



◆むらづくり課公式 SNS

- ◇ X (旧 Twitter) アカウント名：ふるさとくまもと
ID：@kumafuruoen
- ◇ Instagram アカウント名：ふるさとくまもと
ID：@kumafuruoen
- ◇ Facebook アカウント名：くまもとふるさと応援
- ◇ YouTube アカウント名：熊本県むらづくり課【公式】



熊本県棚田マスコットキャラクター
ダンダン

「#ふるさとくまもと」で情報発信の輪を広げませんか？

「#ふるさとくまもと」はご存知ですか？

SNS で情報発信をする際は、本文に「#ふるさとくまもと」のハッシュタグを付けていただくことで、地域活動を行っている方々とのつながりづくりにご活用いただけます。また、「#ふるさとくまもと」の記事を共有(シェア、リポストなど)することで、より多くの方に情報を発信することができます。

イベントや活動内容などの情報を発信する際には、ぜひ「#ふるさとくまもと」をご活用ください！



発行 者：熊本県
所 属：むらづくり課
発行年度：令和 5 年度（2023 年度）



熊本県農林水産部
農村振興局 むらづくり課
熊本市中央区水前寺 6 丁目 1 8 番 1 号
TEL 096-333-2415 FAX 096-385-5025